

平成 29 年度
エコオフィス実行計画実績結果

平成 30 年 8 月

観 音 寺 市

■ 本報告書の位置づけ

観音寺市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第 21 条に基づき地方公共団体に策定が義務付けられている計画を「観音寺市エコオフィス実行計画」として、2014 年 4 月に「第 2 次観音寺市エコオフィス実行計画（以下「本実行計画」という。）」を策定し、地球温暖化対策に取り組んでいます。

本報告書は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条第 10 項に基づき、本実行計画に基づく措置及び施策の実施の状況を明らかにするために毎年度作成し、公表しているものです。

本報告書では、計画期間の最終年度である平成 29 年度の実施状況について報告します。

第 2 次観音寺市エコオフィス実行計画の概要

対象範囲	12 施設
計画期間	2014 年度から 2017 年度
対象とする温室効果ガス	二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン
削減目標	2017 年度までに 2013 年度比 3 %削減

■ 温室効果ガスの排出状況について

本実行計画における温室効果ガスの総排出量は以下のとおりです。

本実行計画における温室効果ガス総排出量の状況

排出源	2013 年度 (基準年)	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	基準年対比
	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂	%
ガソリン	174,401	162,735	141,599	131,645	129,576	-25.7
灯油	73,898	68,757	32,861	40,260	41,251	-44.2
軽油	242,070	214,302	212,169	205,261	248,004	2.5
A 重油	237,160	200,309	205,593	204,496	192,871	-18.7
LPG	4,750	2,735	29,859	25,093	17,058	259.1
電気	2,231,540	2,257,774	2,267,791	2,141,296	2,129,277	-4.6
その他の CO ₂	4,312	5,121	2,468	1,851	2,765	-35.9
CO ₂ 以外 (※ 1)	239,715	233,389	257,484	230,394	224,832	-6.2
温室効果ガス 総排出量	3,207,846	3,145,122	3,149,824	2,980,296	2,985,633	-6.9

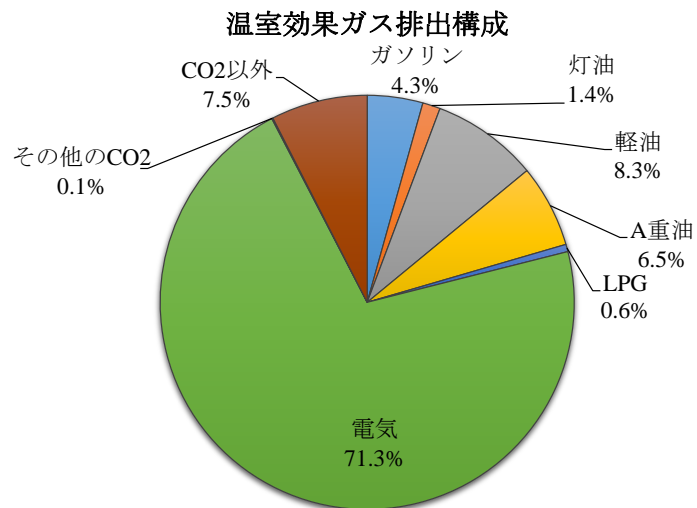
※ 1 : 「CO₂ 以外」とは、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボンを含みます。

※集計は端数処理の関係で一致しないことがあります。

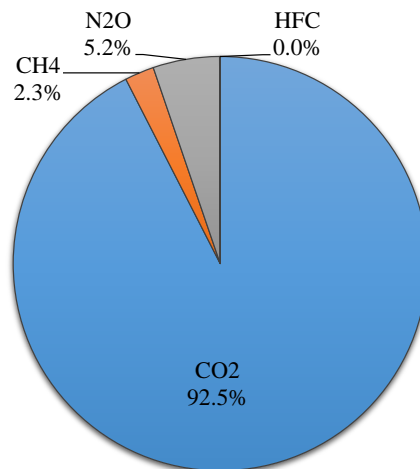
表 温室効果ガスの種類別排出量

温室効果ガスの種類	2013年度 (基準年)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	基準年対比
	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂	%
CO ₂	2,968,131	2,911,733	2,892,341	2,749,902	2,760,802	-7.0
CH ₄	67,330	65,889	77,618	68,935	68,404	1.6
N ₂ O	166,555	161,514	175,542	159,366	155,011	-6.9
HFC	5,831	5,987	4,323	2,093	1,417	-75.7
温室効果ガス総排出量	3,207,846	3,145,123	3,149,824	2,980,296	2,985,634	-6.9

※集計は端数処理の関係で一致しないことがあります。



温室効果ガス種類別排出構成



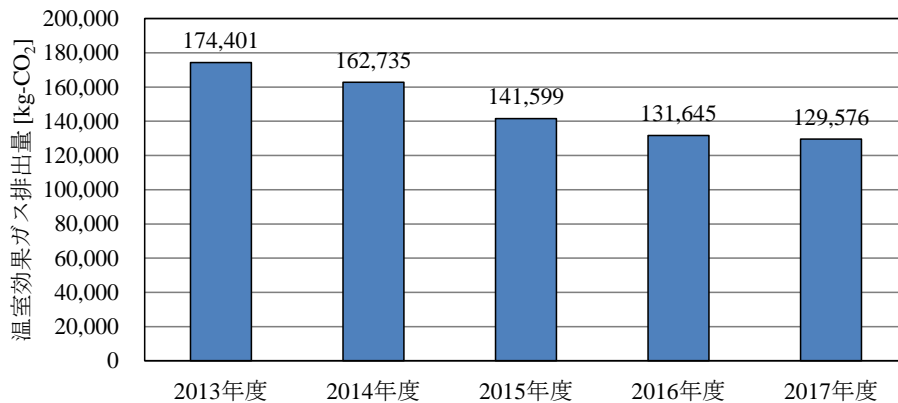
2017年度における温室効果ガスの総排出量は2,986トン-CO₂となり、2013年度を基準年度として約222トン-CO₂、率にして6.9%削減しました。よって、本市は本実行計画に掲げた削減目標（3.0%）を達成しました。

本市の2017年度における温室効果ガスの排出状況は、電気・燃料使用に伴うものが92.4%を占めており、主にエネルギー消費に伴い排出されています。計画期間における電気・燃料使用量の推移は下記のとおりであり、主な削減要因は電気・燃料使用量の削減によるものです。

- ガソリン

- 2017年度における温室効果ガスの排出量は、2013年度（基準年度）に比べて約44トン-CO₂削減（25.7%削減）
- ガソリン使用量の減少は、職員への啓発による公用車利用の減少及びエコドライブの浸透、公用車数の適正化及び低燃費車・低公害車の導入によるもの

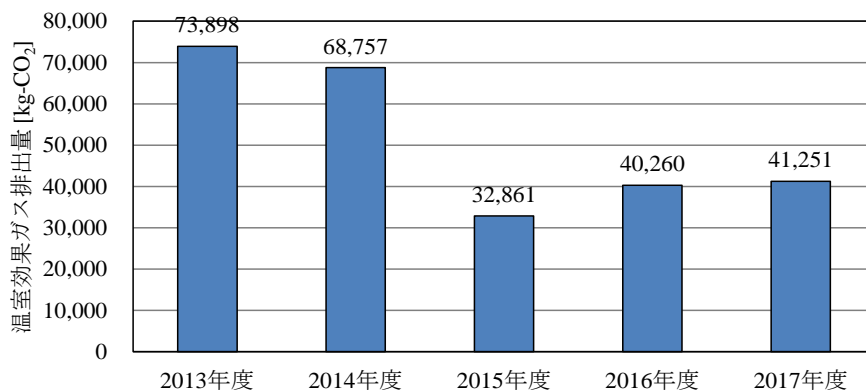
ガソリン使用に伴う排出量の推移



- 灯油

- 2017年度における温室効果ガスの排出量は、2013年度（基準年度）に比べて約33トン-CO₂削減（44.2%削減）
- 灯油使用量の減少は、主に本庁舎の完成に伴う職員の集約化によるもの

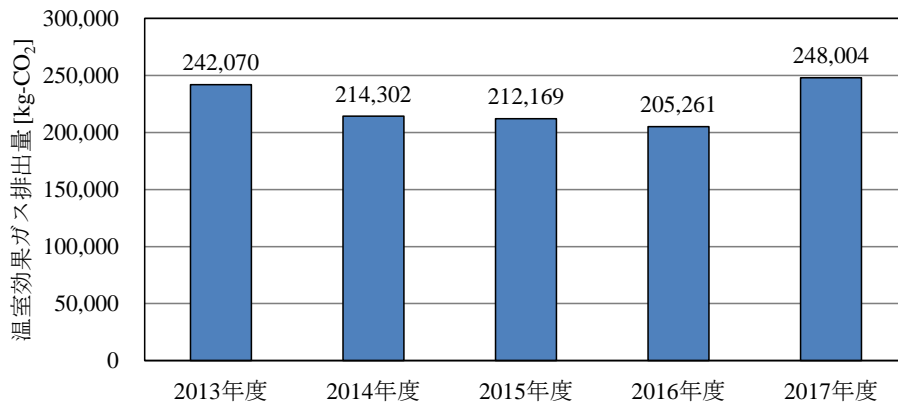
灯油使用に伴う排出量の推移



- 軽油

- 2017 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 6 トン-CO₂ 増加（2.5%増加）
- 軽油使用量の増加は、主にのりあいバスの路線数の増加に伴うもの

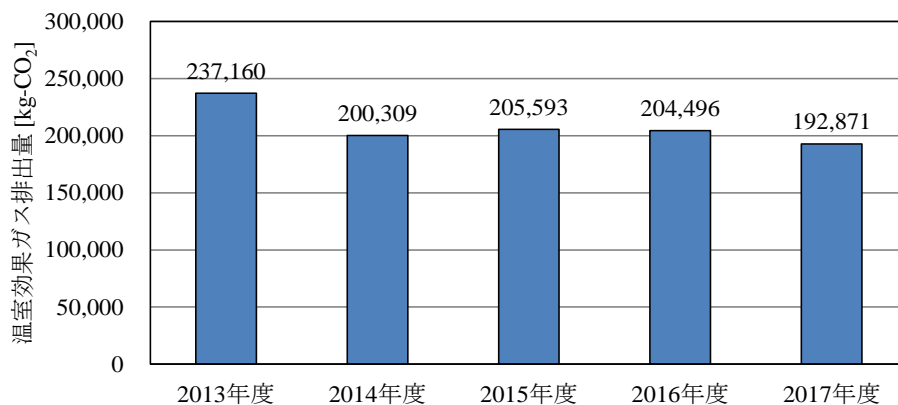
軽油使用に伴う排出量の推移



- A 重油

- 2017 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 44 トン-CO₂ 削減（18.7%削減）
- 使用量の減少は、主に本庁舎の建替えに伴う LPG への燃料転換によるもの

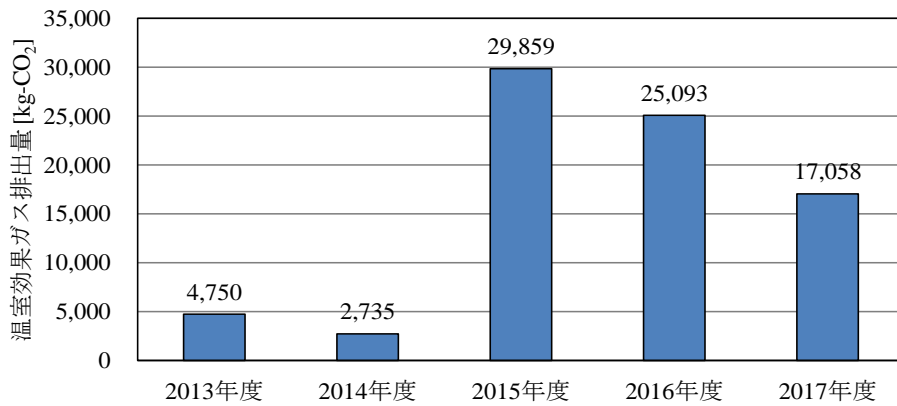
A重油使用に伴う排出量の推移



- LPG

- 2017 年度における温室効果ガスの排出量は、2013 年度（基準年度）に比べて約 12 トン-CO₂ 増加（259%増加）
- 使用量の増加は、主に本庁舎の建替えに伴う LPG への燃料転換によるもの

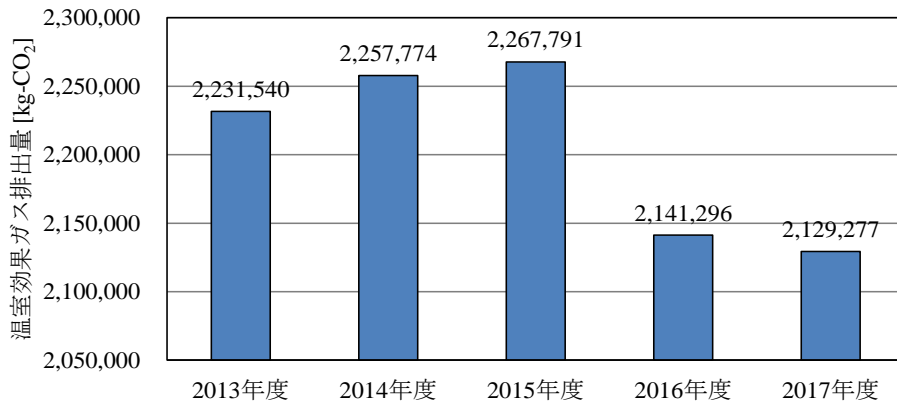
LPG使用に伴う排出量の推移



● 電気

- 2017年度における温室効果ガスの排出量は、2013年度（基準年度）に比べて約102トン-CO₂削減（4.6%削減）
- 使用量の減少は、主に本庁舎の完成に伴う職員の集約化や公共施設の省エネルギー化によるもの、職員への啓発による電気の適正使用によるもの

電気使用に伴う排出量の推移



観音寺市は、2018年3月に計画の対象範囲を市が行うすべての事務事業（直接管理施設及び指定管理施設）に変更するなど本実行計画の内容を大幅に強化・拡充した「第3次観音寺市エコオフィス実行計画」を新たに策定しました。

第3次計画では、2013年度を基準年度として2030年度までに7,254トン-CO₂率にして37.9%削減する高い目標を掲げています。今後も地球温暖化の防止にむけて、市有施設の運用改善や設備導入などハード面での取り組みを積極的にかつ計画的に行うとともに、職員への意識啓発等によりさらなる温室効果ガスの削減に努めます。